



**KORTEL
DESIGN**

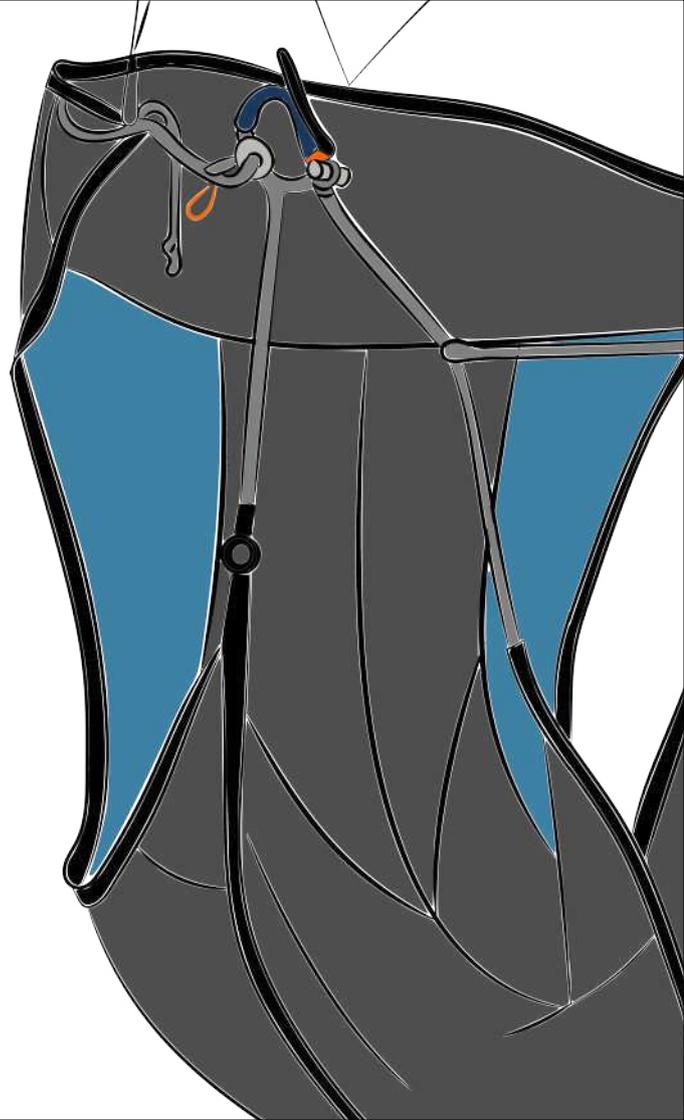
KLIFF III

ご利用ガイド 取扱説明書
ユーザー・マニュアル

日本語版 **V1.0**



有限会社エアハート コーポレーション
〒125-0035 東京都葛飾区南水元2-26-11
Bell Wood bldg.101号室
TEL:090-4735-6585
WEB:[https:// www.airheart.jp](https://www.airheart.jp)
E-mail:info@airheart.jp



はじめに	3	注意事項	23
注意事項	4	保証	24
プレゼンテーション	5	テクニカルデータ	25
製品概要		サイズガイド	26
全体像		その他の情報	27
ハーネスの準備	9		
最初のセッティング			
アクセサリー			
ザーブパラシュートの取り付け			
背中への保護			
テイクオフの準備	15		
ライト前のチェックリスト			
ハーネスの接続			
安全なフライト	17		
テイクオフ			
フライト中			
スピードバーの使用			
リザーブパラシュートの使用			
着陸			
使用上の制限	20		
メンテナンス、お手入れ、修理	21		



読む ...



注意



危険 !!!

はじめに

このたびはKORTEL DESIGNハーネスをお買い上げいただき、誠にありがとうございます！

KORTEL DESIGNハーネスをお選びいただき、また弊社に信頼を寄せていただき、誠にありがとうございます。1999年以来、私たちは細部にまでこだわった製品を設計・開発し、その名声を世界中に広めてきました。快適性、効率性、革新性、そして品質は、製品の設計から納品に至るまで、私たちの創業基準です。

KORTEL DESIGNは、お客様のニーズに耳を傾け、常に革新的でお客様の練習に適応した最高品質の製品を提供するために団結した情熱的なチームです。幸せなパラグライダーのためにデザインされた、高度な技術を要する製品です！



この取扱説明書は、製品の重要な一部です。必ずお読みください。本書には、ハーネスの初飛行の準備に必要な情報、その他多くの重要な安全性、お手入れ方法、メンテナンス方法が記載されています。

KORTEL DESIGNは、お客様に最高のサービスを提供するために、訓練を受けた販売店のネットワークを活用しています。

ウェブサイトでは、販売店の全リストのほか、商品の詳細情報を掲載した追加写真や説明フィルムもご覧いただけます。



本書およびウェブサイト上の情報は、ディーラーやインストラクターのアドバイスに代わるものではありません。

注意事項



パラグライダーの注意事項:

パラグライダーの練習には、事前の特別なトレーニングと装備に関する最低限の知識が必要です。各パイロットは責任を持って行動し、有効な規則（ライセンス/保険）を遵守しなければなりません。すべてのパイロットは天候を正しく判断できなければなりません。また、パイロットの飛行レベルは、使用している装備の必要条件を満たしていなければなりません。パイロットはまた、自然環境や景観を含む環境に注意を払う責任があります。

私たちは自然環境の中で活動しており、動植物に最大限の敬意を払うことが不可欠です！

特に離陸時には、山の生態系における繊細な生物バランスを尊重してください！特に離陸時には、繊細な生態系のバランスを尊重してください。

喫煙者は、タバコの吸殻を持ち帰り、道具の近くでは喫煙しないでください。

適切なヘルメットの着用、適切な靴と衣服の着用、予備パラシュートの携帯は必須です。各フライトの前に、パイロットはフライト用具の全ての部分に損傷がないかチェックし、離陸できるかどうか確認しなければなりません。さらに、各フライトの前には、完全なブレンチチェックを行う必要があります。

各パイロットはパラグライダーの練習に単独で責任を負い、怪我や死亡を含むすべての内在的リスクを受け入れます。メーカーも販売店もパイロットの安全を保証することはできません。したがって、いかなる問題に対しても責任を負うことはできません。

パラグライダー用ハーネス特有の注意事項:

このハーネスと関連アクセサリーのデザインは、パラグライディングのために開発されたものです。デザインは全体として、パラグライディングの練習とその使用の枠組み（レギュレーション、基準）に適合した素材と付属品を定義しています。このハーネスの承認は、パラグライダーというスポーツにのみ適用されます。いかなる誤用も使用者の自己責任であり、事故が発生した場合、メーカーは責任を負いかねます。

パラグライダー用ハーネスの選択は、練習のタイプ（コンペティション、アクロバット、ハイキング&フライなど）やパイロットの経験レベルに合わせて行う必要があります。不適当なハーネスを使用すると、事故や怪我の危険性があります。ハーネスの調整は、最初のフライトの前に少なくとも一度はガントリで行わなければなりません。これらの調整はパラグライダーの快適性と飛行挙動に直接影響します。不適切または間違った調整は、事故や怪我の危険性があります。

パラグライダー用ハーネスに装備されているバックプロテクション（フォームバッグ、エアバッグ、ハイブリッド）は、低強度の衝撃（テイクオフやランディングの失敗、低空からの落下）の際にパイロットの身体に伝わる衝撃波を制限します。どのプロテクターも、怪我、特に脊椎の怪我を完全に防ぐことはできません。プロテクターで覆われている部分のみが衝撃から保護されます。改造や誤用は、背面プロテクターの性能を危険なほど低下させます。激しい衝撃を受けた場合は、デバイスの完全性を確認し、疑問がある場合は遠慮なくメーカーにお問い合わせください。

プレゼンテーション

クリフIIIは、マウンテンフライトやラン&フライのための究極のハーネスです。

クリフIIIは、この重量ハーネスでは比類のない快適性を提供する3D成型を採用。
ハーネスと一体化するような快適性を提供します。

まるで第二の皮膚のようです！

コルテルデザインが開発し、すでにクリフIIIに採用されている独自の「コネクト」システムを搭載したこのハーネスは、コネクターなしで直接グライダーに取り付けられます！



背面のポケットには、さまざまなホモロゲーション・テスト（EN / LTF / CE）の適合ラベルが入っています。このラベルがない場合は、ハーネスを使用しないでください。



プレゼンテーション

製品概要

ハーネスがお手元に届きましたら、販売店に部品の欠品がないことをご確認ください。

コンポジション KLIFF III:

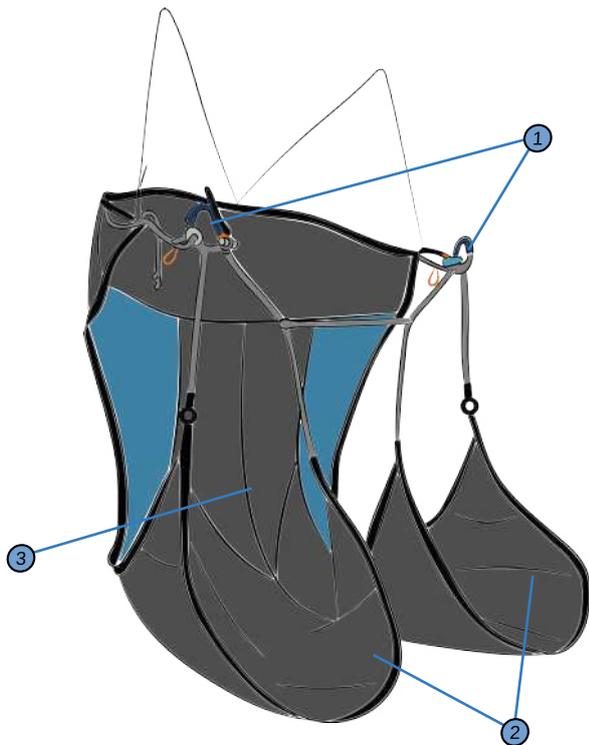
- 1 harness



① Harness

プレゼンテーション

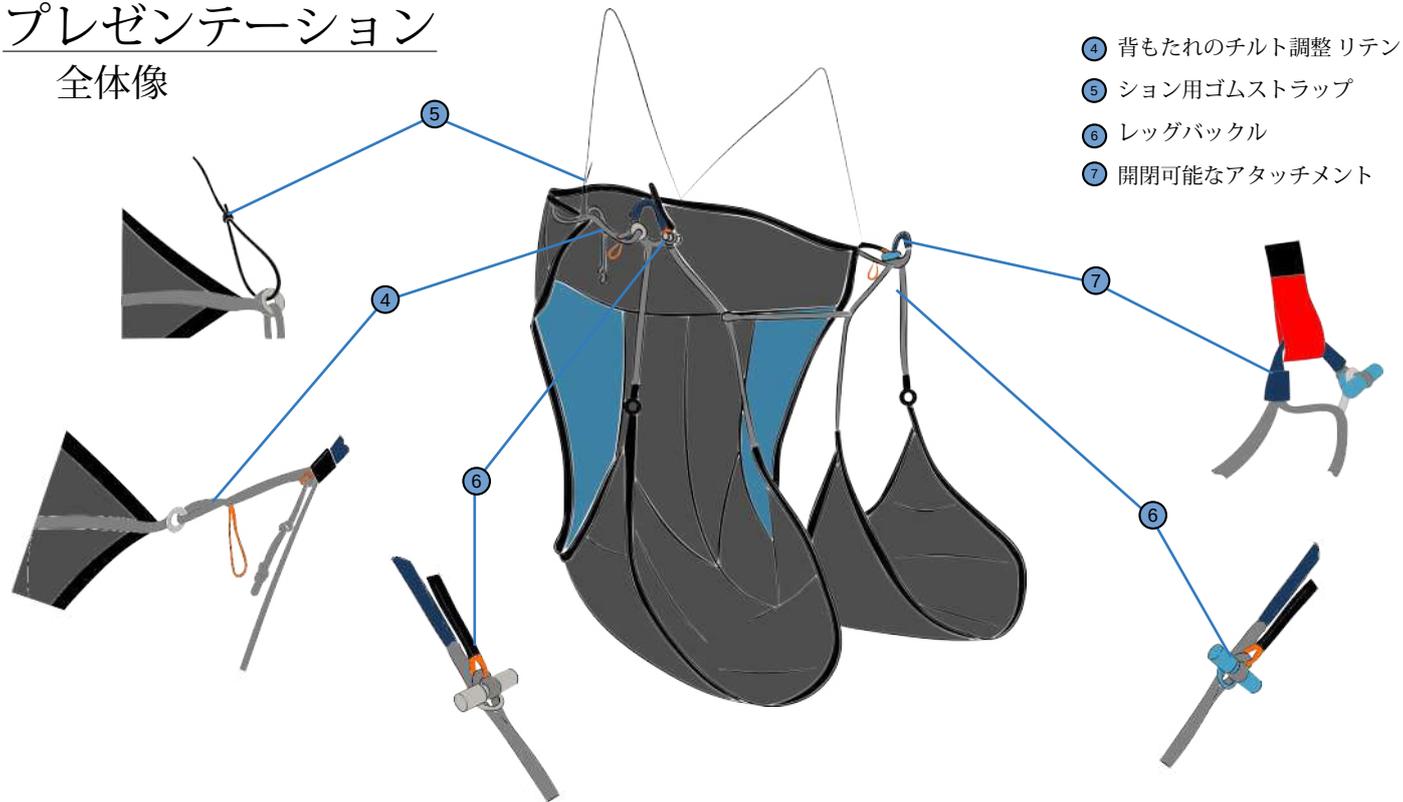
全体像



- ① 開閉可能なメイン・アタッチメント・ポイント人間
- ② 工学に基づいた脚部
- ③ 3D成形形状

プレゼンテーション

全体像



ハーネスの準備 最初のセッティング

初フライトの前に、販売店と一緒にガントリーの下で最初の調整を行うことが重要です。ロールを見ることができ、ガントリーは、各調整の効果を実感するのにプラスです。

ハーネスには最大4つの独立した調整エレメントを装備でき、最適な快適性と操縦効率を実現します。

ショルダー調整:

ショルダーストラップは、離陸時にハーネスを持ち運び、空中でのパイロットの傾きを制限し、ヘッドダウン"フライト"の際のパイロットの落下を防ぎ、リザーブパラシュート下でのフライトの際にパイロットをサポートします。

ガントリー内でハーネスの着脱が問題なく行えることを確認した後、空中でより快適なサポートを得るために肩の調節が必要になることがあります。離着陸時および空中での肩の可動性を維持するため、密着させることをお勧めします。

背中調整:

背中の調節ストラップはパイロットの背中の傾きを調節します。背中の傾斜が強すぎると、フライトが不快になったり（視界が悪くなる）、着陸時にハーネスから出にくくなります。きつすぎると離陸後にハーネスに乗り込むのが難しくなります。

メインポケットやバラストの重量に応じて、この設定を空中で変更し、ハーネスとパイロットアセンブリのバランスを調整することができます。

ランバーサポート調整:

この調整により、パイロットの腰椎のサポートが完璧に維持され、長時間のフライトでも最適な快適性を得ることができます。このサポートにより、座った状態でも横になった状態でもハーネスの人間工学に基づいた調整が可能です。

腹部調整:

腹部ストラップの調整により、メインアタッチメントポイント間の距離を調整することができます。メインアタッチメントポイント間の距離は、使用するグライダーのメーカー仕様に従ってください。適切でない距離はグライダーの挙動に直接影響します。このセッティングの動作はハーネスの安定性に影響を与えます：締め付けるとハーネスが束縛されやすくなり、緩めるとハーネスがより生き生きとした性格を持つようになります。



セッティングは快適性だけでなく、航空機の操縦にも直接影響します。離陸前には特に注意が必要です。

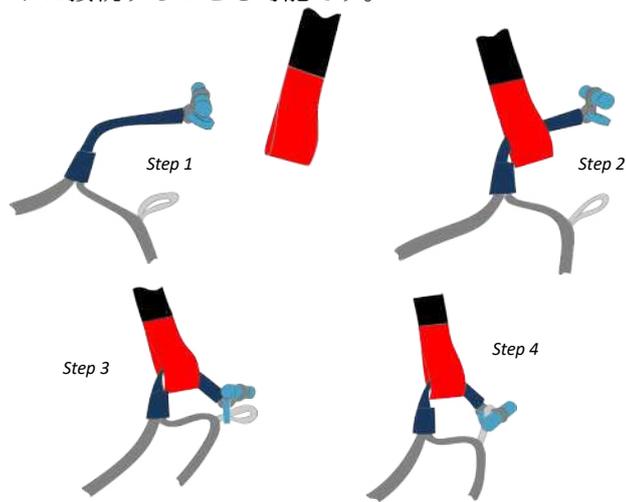


このハーネスでは、すべての設定にアクセスでき、空中で変更することができます。

ハーネスの準備 最初のセッティング

コネクタ:

ハーネスにはアンカレッジポイントにコネクタが内蔵されています。このコネクタを使用するには、以下の手順（ステップ1～4）に従ってください。独立したコネクタを使用し、適切に閉じたアンカーポイントに接続することも可能です。



ハーネスをグライダーに接続する4つのステップ



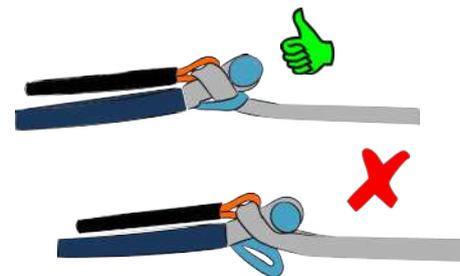
ジックラル製自動カラビナに関する現在の知識によると、カラビナは5年ごと、または500時間の使用で交換することが推奨されています。



抵抗値が2400daN以上のコネクタの使用をお勧めします。フレキシブルコネクタは、幅25mm以上のストラップには使用しないでください。



カラビナを操作した後は、必ずロックがかかっているか確認してください。疑わしい場合は、操作を繰り返してください。



Konnect "システムが適切に閉じられていることを目視で確認します。

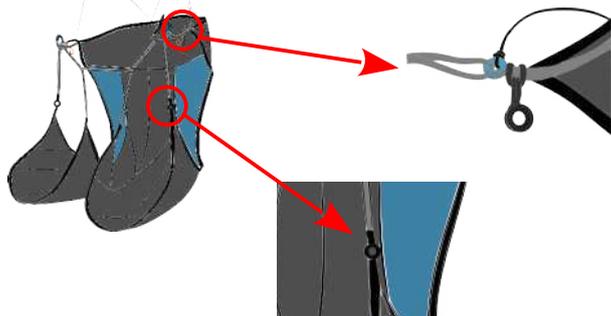


詳細情報はwww.korteldesign.com

ハーネスの準備 アクセサリ

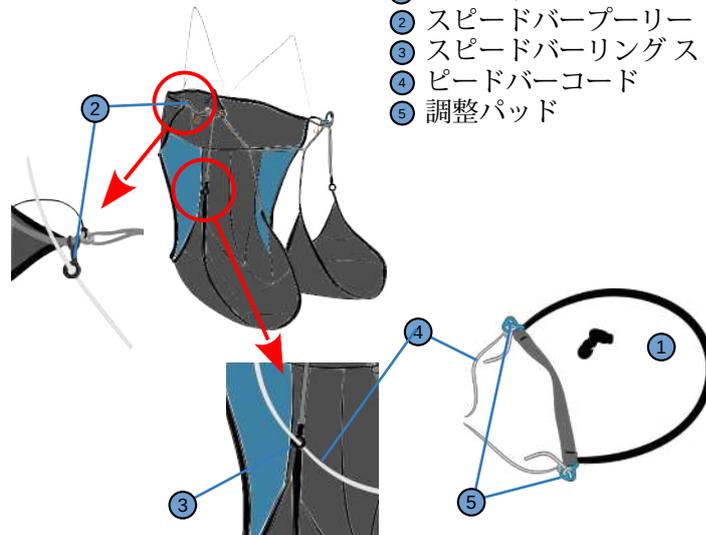
スピードバーの取り付け:

ハーネスにはライトリングが付属しており、必要に応じてライトアクセルを取り付けることができます。リングはダイニーマ・ハリヤードの両サイドに1つずつ、背面アジャスターの後ろ側に取り付けます。レッグガイドリングは太ももの高さでアウターハリヤードに装着します。



オプションのスピードバーを取り付けるには、ハーネスのサイドにあるプーリーにコードを通し、大腿部の前方にあるリングに挿入するだけです。軽量スピードバー（ライン径4mm以下）のみを使用してください。

- ① スピードバー
- ② スピードバープーリー
- ③ スピードバーリングス
- ④ ピードバーコード
- ⑤ 調整パッド



スピードバーの調整は調整パッドの高さで行います。最適な調整により、足を伸ばした状態で(段目を押し出すと、グライダーの全速度域を利用することができます。



スピードバーは短く設定しないでください。パイロットが自発的にスピードバーを操作しないと、グライダーがアクセル位置にならないようにしてください。

ハーネスの準備

リザーブパラシュートの取り付け



警告!



リザーブパラシュートの装着は、決して軽微な作業ではありません。有資格者によって、厳格に実施されなければなりません。最初の取り付けを確認するためには、ポータルエクストラクションテストを行い、どの要素も脱出時に邪魔にならないことを確認することが不可欠です。このテストは、飛行中と同じようにハーネスに装着したパイロット自身が行う必要があります。

リザーブパラシュートのメンテナンスと整備は、製造元の推奨に従って行ってください。

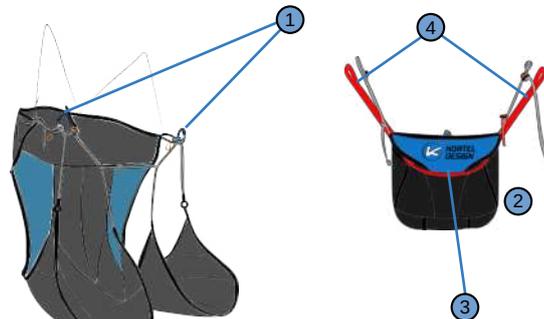
クリフIIIにはレスキューコンテナは装備されていません。予備を装備するには、取り外し可能なフロントコンテナを追加してください。

このタイプのハーネスには、特に「コンテナ・コックピット」の使用をお勧めします。

レスキュー・ライザーの接続はメイン・アンカー・ポイントで行います。



選択されたベリーコンテナの取り付け説明書を参照してください。



- ① 主要アンカーポイント
- ② コンテナコックピット
- ③ リザーブハンドル
- ④ リザーブライザー



年に一度は、パラシュートの取り付けをやり直し、パラシュートの全体的な状態（針、ゴム、ベルクロ、湿気の有無など）をチェックすることをお勧めします。

非常用ライザーの通路は、アクセル通路の外側になければなりません。取り付け時に必ず確認してください。

ハーネスの準備

リザーブパラシュートの取り付け

レスキュー・ライザーをショルダー・ループに接続するには、次のような方法があります:



« カイトループ »



« クイックリンク »



ヒバリの頭の接続は、2つのループが互いの中心にしっかりと位置し、手で可能な限りきつく締められたときに正しいとみなされます。2つのパーツの間に相対的な動きがあってはなりません。



« T-Bone Link »



« Soft-Link »



フレキシブル・コネクタは、幅25mm以上のストラップには使用しないでください。クイックリンクについては、メーカーの推奨事項を参照してください。

コネクタを賢く選ぶことが重要です。ハーネスのコネクティングストラップやパラシュートのレスキューライザーに適合する寸法と形状でなければなりません。



レスキュー・リフト "リンクに使用するコネクタには、最低2400daNの抵抗が必要です。ライザー・セーフティ・ハーネス "1200daNハーネス "リンクの場合：1200daN

ライザー一体型のディレクトル・レスキュー・パラシュートを使用する場合は、これらのライザーを直接接続する必要があります。メーカーの取り付けおよび使用上の注意を参照してください。



詳細情報はwww.korteldesign.com

ハーネスの準備 背中の保護

このハーネスには背中の保護は一切ありません。



テイクオフの準備

フライト前のチェックリスト

プレフライトチェックは離陸前の最後のステップです。離陸前にすべてのパラメータがグリーンであることを確認できるため、この段階をおろそかにしてはなりません！

以下の点を注意深くチェックしてください。:

設備の状態:

ハーネスやグライダーに目に見える損傷がないこと。コネクターの状態と機能を確認してください。

背中での保護:

プロテクションは良好な状態、インフレーションスリーブは作動可能、ジッパーは適切に閉じていること。

レスキューパラシュート:

テイクオフの前にフラップと針が所定の位置にあること、ハンドルがハウジングに正しく取り付けられていることを確認してください。

レスキューパラシュートを使用するには、赤いハンドルを掴んで引くと、コンテナのロックが解除され、レスキューパラシュートを取り出すことができます。

調整項目:

理論的には、あなたのセッティングは良いのですが... 友人にハーネスを試してもらったのですか？ その際、特にバックサポートが元通りに設定されていることを確認してください。

スピードバー:

短すぎるスピードバーは、グライダーを永久に加速させ、フライトを非常に困難にする危険があります。着陸して問題を解決するか、空中でコードを切断するのが望ましいです（アクセス可能なラインカッターを使用）。レスキューライザーが横向きに誘導されている場合、アクセルコードが脱出の妨げにならないように注意してください。ハーネスを貸す場合は特に注意してください。

グライダーの準備:

グライダーは正しく広げられ、テイクオフを容易にするためにラインはよくほどこけていなければなりません。

グライダーの接続:

グライダーをハーネスに接続し、ライザーにねじれがないことを確認し、コネクターが正しく閉じていることを確認してください。

気象条件の分析:

コンディションを正しく分析することは、安全なフライトのための大きな基準です。疑問があれば、ためらわずに専門家に相談ください。



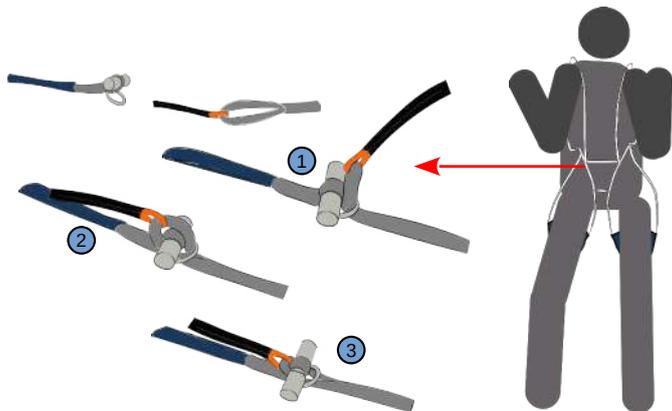
離陸チェックリストに少しでも疑問がある場合は、フライトをキャンセルし、問題があれば修正することが望ましいです。

テイクオフの準備

ハーネスの接続

プレフライトが完了し、チェックアウトが済んだら、ハーネスを正しく装着します。:

- ハーネスを装着
- ハーネスを装着する際は、バックルを閉じたままにしておくことをお勧めします。ハーネスを装着する際、レッググループを開くことは可能です。:
- Konnect "システムのリングにダイニーマのループを通します。
- 金属ピンにループを通します。
- ループを締める



ジェスチャーハーネスの設定と同様に、パイロットの離陸時のジェスチャーも重要です。
より詳しい情報はwww.korteldesign.com



安全なフライト ...

テイクオフ

テイクオフの段階はフライトの重要な段階です。ハーネスにコクーンが装備されている場合は、以下の手順で離陸することをお勧めします。:

- チェストストラップに体を預けて対気速度を上げます。
- 離陸後もこの姿勢を維持し、コクーンが開く様子を視覚化します。
- 右足はまっすぐのまま。
- 左足のかかとでコクーンをつかみます。
- 右足を完全に引き込み、バックスイング。
- 左足をタックイン。

フライト中

各フライト・フェーズには優先ポジションがあります：風景に近いサーマルやトランジションでは、障害物を見やすくするために直立姿勢をとり、下からの情報を観察しましょう。サーマルや天井近くでのトランジションでは、空気に身を任せ、地面のことは忘れて雲を観察しましょう。強いエアロロジーの場合は、脚を一緒に曲げ、太ももをメインストラップにくくりつけて腹筋と腰筋を使い、ローリングの動きを予測してコントロールします。

飛行効率を向上させるためには、肩のかみ合わせ、腰の揺れ、脚の交差、フラットにターンするためのリバースロールの作成など、影響を与えるあらゆるサポートを検出するようにします。

スピードバーの使用

スピードバーの使用には力が必要であり、ハーネスの位置にも影響します。フライト中にハーネスを使用する前に、ガントリーの下でテストを行うことをお勧めします。

スピードバーを常時使用する必要がない風のコンディションでのみフライトしてください。最高速度に達するには、Aライザーの(つ)のプーリーが接触するまでスピードバーをしっかりと押してください。スピードバーを使用すると、グライダーの迎え角が減少し、スピードが上がります。グライダーは安定しなくなり、倒れやすくなります。したがって、スピードシステムは常に地上から十分な高度をとり、障害物や他の航空機から十分な距離をとって使用してください。加速度的な崩壊はしばしばより激しくなり、より迅速な回復が必要となります。



パイロットはそれぞれ、効果的であるための感情や行動を持っていきます。
好奇心を持ち、大胆に！

安全なフライト ...

リザーブパラシュートの使用



リザーブパラシュートの使用は、決して軽微な行為ではありません。安全な環境で、専門家に囲まれて、飛行事故シミュレーションコースで少なくとも一度は練習することをお勧めします。

様々な理由により、リザーブパラシュートを使用する必要がある場合があります。

そのような場合は、次のように行動することをお勧めします：

- 1 レスキューハンドルを見つけ、片手でしっかりとつかみます。2 ハンドルを強く引いてコンテナのロックピンを外し、レスキューパラシュートの入ったポッドを外します。
- 3 ポッドとハンドルをハーネスから離れるようにできるだけ強く投げ、レスキューパラシュートのラインが伸びて開口部ができるようにします。
- 4 不測の事態を避けるため、キャノピーをニュートラルにし、BラインまたはCラインをしっかりと引いて、キャノピーをボール状に戻します。極端な場合は、ラインカッターでライザーの全部または一部を切断してください。5 可能な限り直立姿勢をとり、ロールアップ（スカイダイビングテクニック）で衝撃を和らげる準備をしてください。

強風下での着陸の場合：

強風の場合、リザーブパラシュートでの着陸はパイロットを数メートル引き離す可能性があります。地上に降りたらできるだけ早くバックルを外すことができるよう、あらかじめ最大限のバックルを外しておくことをお勧めします。必要であれば、遠慮なくラインカッターを使って自由にしてください。

着水の場合：

レスキューパラシュートの軌跡が水域（海、湖、川など）を通過する場合、水域に到達する前に、ラインカッターを使って、できるだけ多くのバックル（胸部、繭、前部）を外すことをお勧めします。こうすることで、ハーネスから降りて水に飛び込むことができ、ラインが絡まるリスクを減らすことができます。水中に入ったら、キャノピーやラインからできるだけ離れてください。

木の着地の場合：

木の高いところで身動きが取れなくなった場合は、救助を待つ間、身の安全を確保することをお勧めします。墜落の危険性を回避し、救助隊の作業を容易にするために必要な装備（ロープ、カラビナ）を含むキットが用意されています。また、キットの中には、怪我に備えた救急箱が含まれているものもあります。一般的に、自力での下山はお勧めできません。



パイロットのポジションに慣れ、必要に応じてこのジェスチャーを本能的なものにするため、フライトのたびに「コントロールハンドル」を行うことをお勧めします。

安全なフライト ...

着陸

フライトの中で最もデリケートな時期。
疲労、脱水、下肢の固有感覚喪失、人生で最も美しいフ
ライトの幸福感、これらすべてが必然的にあなたの警戒
心に影響を与えます！

集中力を高め、環境を分析し、もちろんハーネスから降
りて足の可動性を取り戻すことも忘れずに！
コクーン（繭）を使って、かかとを内側に保ったまま最
初の足を出し、2番目の足を無理なく出せるようにしま
す。
フライトが長くて寒かった場合、足首と膝を再び動かす
のは贅沢なことではありません。
背中への保護ではなく、足で勾配の影響を和らげる準備を
してください！



使用上の制限

タンデム練習

このハーネスは決してタンデムでのパイロットまたはパッセンジャーとしての使用を意図したものではありません。このハーネスはタンデム用に設計されておらず、適切なリザーブを取ることができません。また、このハーネスには背中のプロテクションもありません。いかなる使用も個人的な判断によるものです。事故が発生した場合、メーカーは一切責任を負いません。



ウインチテイクオフの練習

すべてのハーネスはウインチ対応です。ウインチとハーネスを接続するためのループは特にありません。ただし、ハーネスのアンカレッジポイントに接続部を追加し、そこにリリースシステムを取り付けることはお勧めしません。ライザーに直接接続できるシステムを使用することをお勧めします。推奨モデルについては、国内連盟の推奨を参照してください。
FFVL推奨モデル (リンクをクリック)

学校での練習

このハーネスを学校での学習に使用することは可能です。

アクロバットの練習

フリースタイルフライトは可能ですが、このハーネスはエアロバティックフライトのために設計されたものではありません。このハーネスはその構造上、適していません。ハーネスの使用は個人の責任において行ってください。万が一事故が発生した場合、メーカーは責任を負いかねます。

メンテナンス、お手入れ、修理

一般的なケア：

少なくとも2年に e 度は、ハーネスの完全な目視点検をお勧めします。年に e 度の点検が望ましいです。

リザーブパラシュートについては、メーカーの推奨事項を参照してください。一般的には、年に $e \sim 2$ 回、換気と折りたたみを行うことをお勧めします。

最低限、年に2回はレスキューコンテナが正常に作動していることを確認するため、ガントリークレーンを使って取り出しテストを行うことをお勧めします。

修理：

磨耗や破損、縫い目の破損、素材に問題がある場合は、ハーネスのモデル、シリアル番号、問題の内容、状況を明記の上、弊社 (sav@korteldesign.com) までご連絡ください。問題の原因を特定し、シリーズ内の他のハーネスを調査するために、数枚の写真を添付してください。法律で定められた2年間の保証期間を過ぎた場合、製造上または設計上の真正な欠陥であることが証明された修理に限り、無料で保険を提供させていただきます。

製造上の欠陥、消耗品、シリアル番号：

万が一、磨耗、縫い目の破損、素材の不具合が生じた場合は、ハーネスのモデル、シリアル番号、不具合の内容、状況を明記の上、写真を数枚添付して弊社

(sav@korteldesign.com) までご連絡ください。

法律で定められた2年間の保証期間を超えた場合、真正な製造上の欠陥または設計上の欠陥であることが証明された修理に限り、無料で保険を提供いたします。

改訂：

ハーネスの経年劣化に関連する事故はほとんどありませんが、重要なポイントが良好な状態に保たれているかどうかをチェックすることは重要です。紫外線、湿度、摩擦は使用する素材を変えます。

素材の欠陥による早期の経年劣化を免れることはできません。

特に木や岩に着地した場合、あるいは消防隊が介入した場合など、使用状況に応じて2年ごとにハーネスの目視点検を受けることをお勧めします。初期点検を実施できる販売店にお問い合わせいただく

か、sav@korteldesign.com までご連絡ください。



少なくとも2年に x 度は、ハーネスの完全な目視点検をお勧めします。年 x 回の点検が望ましいです。



メンテナンス、お手入れ、修理

保管:

理想的な保管場所は、光の当たらない乾燥した温度の低い場所です。バックプロテクターを圧縮しないでください。

ハーネスのフォームやプレートを含む部分を折り曲げないように注意してください。

洗濯:

ハーネスは真水と中性石鹸で洗い、乾燥した風通しの良い場所で乾かしてください。可能であれば、バックプロテクター（フォーム）を取り外してください。

タンブラー乾燥機は使用しないでください。すすぎは丁寧に行い、乾燥した場所で日光を避けて乾かしてください。

着水の場合:

- 海水の場合：ハーネスを真水ですすいだから、上記の手順に従ってください。
- 真水の場合は、洗浄手順に従ってください。

環境に配慮した廃棄:

使用期間終了後は、環境に配慮した廃棄をお願いします。

異なる要素（布地、プラスチック、金属など）を分別し、その分類に従ってリサイクルに出すことをお勧めします。コルテルデザインに製品をご返却いただければ、正しい処分をさせていただきます。



Contrôle / Inspection
2 ans / years

注意事項

このハーネスにはバックプロテクションは内蔵されていません。

- 一般的に、以下のことを覚えておくことが重要です。:
- どんなプロテクターも怪我を完全に防ぐことはできず、特に背中のプロテクターは脊椎の怪我を防ぐことはできません。
- プロテクションで覆われた身体の一部だけが、衝撃保護の恩恵を受けます。
- 改造や誤った使用は、バックプロテクションの性能を危険なほど低下させます。
- 取り外し可能なガードの場合、保護が確保されるのはガードがあるときだけです。

保証

すべてのハーネスには2年間の法定保証期間が適用されます。

不具合を発見された場合は、アフターサービス (sav@korteldesign.com)までご連絡ください。その際、不具合の内容や可能であれば写真も添付してください。状況を迅速に分析し、今後の対応についてアドバイスさせていただきます。

この法定2年保証期間を超えた場合は、製造上または設計上の真正な欠陥であることが証明された場合に限り、無償修理を行います。

ハーネスの寿命は、使用頻度や使用方法によって異なります。機械的なストレスや摩擦はハーネスの特性を徐々に劣化させます。また、紫外線や湿気も経年劣化を早めます。

通常の使用期間：10年

注意 この使用期間は目安です。ハーネスは初めて使用された時点で廃棄される可能性があります。年2回の点検で、より早く廃棄しなければならないかどうかを判断します。間すべての用途において、適切な保管が不可欠です。使用期間は10年を超えないようにしてください。



テクニカルデータ

	S	M	L	XL
Weight (g)	210	220	235	260
Certification	EN 1651			
Max weight in flight (kg)	120			

材料:

Fabric:

70 D Rip stop: Phenom Textil
Renforts 190 grs: Aluula

Straps / cords :

Dyneema Taurus: Edelrid

Buckles:

Kortel : LFR 16/8, et 11/5, ring, embout de Nitinol 1.5 : Kortel
Nitinol 1.5 mm: Xi'an Zhanwo Metal Material Co



サイズガイド

自分の体型に合ったサイズのハーネスを選ぶことが重要です：

- さまざまな機能をフル活用
- 最高の快適性を得るために
- ハーネスと一体化し、グライダーの操縦を最適化します。

	150	155	160	165	170	175	180	185	190	195	200
50	S	S	S	S							
55	S	S	S	S	*						
60	S	S	S	S	S/M	M					
65	S	S	S	S/M	M	M	*				
70	*	S	S/M	M	M	M	M	*			
75		*	*	M	M	M	M	M/L	L		
80			*	M	M	M	M/L	L	L	*	
85				*	M	M/L	L	L	L	L	*
90					*	*	L	L	L	L	L/XL
95						*	L	L	L	L/XL	XL
100							*	L	L/XL	XL	XL
105							*	L/XL	XL	XL	XL
110								*	XL	XL	XL

* 理想的なサイズを決定するために必要なテスト



この表は、お客様の身長と体重に理論的に対応するハーネスのサイズを示したのですが、試乗も可能な販売店のアドバイスに代わるものではありません。(リストはwww.korteldesign.com)

その他の情報

当社のウェブサイトでは、写真、説明ビデオ、...などの追加情報をご覧いただけます。ご不明な点がございましたら、ウェブサイトをご覧いただくか、下記までお問い合わせください。:

Kortel Design
1096 Avenue André Lasquin - 74700 Sallanches - FRANCE
Tel +33 (0)9 50 10 73 27 - [info@ korteldesign.com](mailto:info@korteldesign.com) – www.korteldesign.com

Carnet d'entretien / Service book



<i>Date</i>	<i>Signature</i>	<i>Remarques / Notes</i>
__ / __ / ____		
__ / __ / ____		
__ / __ / ____		
__ / __ / ____		

N° série / Serial Numb. _____ *Taille / Size* _____

*Have a nice
flight !*





KORTEL
DESIGN